

# 労災ケア通信

第81号

2022年11月28日

発行：一般財団法人  
労災サポートセンター

〒102-0073

東京都千代田区九段北4-1-3  
飛栄九段北ビル10F

TEL 03-6834-2510(代表)

FAX 03-6834-2530

ホームページアドレス

<https://www.rousaic.or.jp>

## 生きるエネルギーが 満ち溢れていた

### 第17回労災重度被災者作品展を開催しました

令和4年10月19日から21日まで  
の3日間、福岡県福岡市の「マリ  
ンメッセ福岡A館2階海のモール」に  
おいて「第17回労災重度被災者作  
品展」(リハビリからアートまで)  
を開催しました。



この作品展は、労働災害で重度の  
障害を負った方々が、多くの困難を  
克服し制作した作品を展示するも  
ので、中央労働災害防止協会が主  
催する全国産業安全衛生大会に合  
わせて開催しており、今回は緑十字  
展の特別展としての開催とな  
りました。

作品展には61名の方々から  
131点の作品が展示され、こ  
のうちケアプラザ(岩見沢、富  
谷、四街道、瀬戸、堺、呉、新  
居浜、宇土)からは26名の入  
居者の方々から55点の作品が  
寄せられました。



会場となったマリンメッセ福岡A館



「作者のメッセージは感動する言  
葉の数々だった」  
「勇気づけられた」  
「災害防止の大切さを改めて感じ  
た」

#### 作品展

会場には、  
作品を出  
展された  
ご本人や  
そのご家  
族、全国  
産業安全  
衛生大会  
に参加さ  
れた企業  
の安全衛生担当者など3  
千名近くの方々が来場してくださり、  
作品を鑑賞されていました。

「ケガをされた方に目を向けるこ  
とも重要だと知った」  
「前向きに生きておられ、(私が)  
もっと頑張らないといけないなど元  
気をもらいました」など、多くの感  
想をいただきました。  
今回、作品を出展して下さった  
方々、出展にあたりご協力いただい  
た各施設の皆様、また、作品展にご  
来場いただきました皆様に心より御  
礼申し上げます。  
なお、紙面の都合上、出展作品の  
紹介は、次号とさせていただきます  
としております。

#### ケアプラザだより

#### ケアプラザ岩見沢

#### 「アジアンフェア」

管理栄養士 花田明美

7月に「アジアンフェア」と題し  
て、給食業者(株)LEOC)の皆様  
にご協力いただき、タイ・台湾・韓  
国・中国の代表的な料理を提供しま



が、入居者の皆さまからは「初めて食べたわ」「たいしたもんだ」「美味しい」などの感想をいただきました。



ルーローハン



キンパ

「楽しみ」「楽しさ」「楽しさ」など、興味を持ってくださった方々の期待に沿えられないか不安もありました。



(左) 木村さん (右) 鈴木さん

施設内の何もかもが初めてのことで、さすがに職員、入居者の皆様、丁寧に

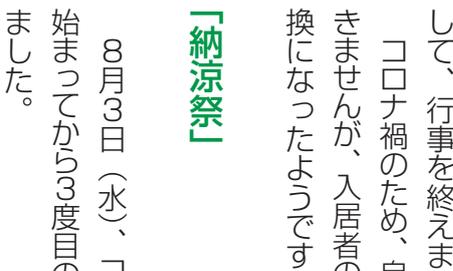
「実習を振り返って」専門学校北海道福祉・保育大学校 社会福祉学科2学年 木村美紅 鈴木美咲  
 この度の介護実習ではお忙しい中、25日間にもわたりご指導いただきありがとうございました。入居者の皆様との関わりを通して、座学や高齢者施設での実習では得られない、様々な学びを得ることができました。



玄関前ホールにてすいか割り大会の様子

総務課  
 昨年度コロナ禍でも皆で楽しめる夏の行事として好評だった「すいか割り大会」を、7月13日(水)に開催しました。

「すいか割り大会」  
 ケアプラザ富谷  
 今回の介護実習で学んだことを今後の学習や3年次での実習、そして福祉職として働く際に活かし、より一層精進していきたいと思っています。25日間本当にありがとうございました。



総務課  
 「納涼祭」  
 8月3日(水)、コロナ禍生活が始まってから3度目の納涼祭を行いました。

前ホールに会場を設営し、きれいに飾り付けをした七夕飾りを背景にして、多数の入居者の方々がすいか割り体験しました。目隠しした入居者様がすいかに近づくと、「前、前、もうちょっと右」「そこだ、頑張れ！」など、周囲から自然に掛け声がかかり、大いに盛り上がりました。その後、割れたすいかの味見をし、最後は作業療法士とラジオ体操をして、行事を終えました。



すいかの前に「エイ!!」

前ホールに会場を設営し、きれいに飾り付けをした七夕飾りを背景にして、多数の入居者の方々がすいか割り体験しました。

しかし、そんな心配とは裏腹に、射的に何度もチャレンジされる方、オリジナルのトッピングでかき氷を味わう方など、お祭りを楽しむ入居者の方々の姿がありました。

食事も、昼は「焼きそば」、「たこ



今年も感染拡大防止のため、ご家族やボランティアの方をお招きすることが出来ない状況での開催となり、職員からは入居者の方々に楽しんでいただけるだろうか？と心配する声もありました。



会場のコミュニケーションにはお神輿を飾り、くじ引き、綿あめ、かき氷の

8月3日(水)、入居者の方々と職員で「お祭りカフェ」を開催しました。

行事実行委員会

納涼祭「お祭りカフェ」の開催

ケアプラザ四街道

やき」、「チョコバナナ」、夜は「おにぎり」、「焼き鳥」、「フランクフルト」と、縁日の屋台メニューとし、また、職員も一緒に縁日を楽しみようにしたこと、入居者の方々のお祭り気分もより一層高まったようです。

来年こそはコロナ禍が収束し、ご家族やボランティアをお招きするなど、より賑やかな納涼祭を開催できればと願っております。



ゾーニング



感染予防の勉強会

また、

「感染防止対策」の取り組み

感染防止委員会

屋台を出店し、入居者の方々にお祭りの雰囲気を感じていただくことができました。

感染防止委員会では、入居者の皆様に安全なケアが提供できるよう、感染予防や感染対策に関する勉強会や研修を開催し、様々な感染症に



と緑色の水草に引っ越してきてもらいました。係長が、水槽内をリノベーションし、

定期的に入居者の皆様と感染予防の勉強会を開き、施設一丸となって感染防止対策に取り組んでいます。

施設長が水槽の掃除を行い、理学療法士のお宅から、かわいいメダカが付き、メダ力を飼うことにしました。

「メダカが来ました〜!」

介護課

コロナ禍により外出も面会も制限され窮屈な毎日を送られている入居者の皆様の生活に、少しでも彩を添えることができないかと頭を悩ませていたところ、施設内に使用されていない大きな水槽があることに気が付き、メダ力を飼うことにしました。

ケアプラザ瀬戸

「メダカが来ました〜!」

介護課



綺麗な水中花も咲かせています。お水も定期的に交換しており、メダカたちにとって、

とても住みやすい環境になっていることと思います。

最近入居されたNさんは、水槽の前に座り、メダカが泳ぐ姿をよくご覧になられています。Nさんは、「一生懸命泳いでいる姿を見ると癒されますね」「卵を腹にひっつけたメスを見ると『がんばれお母さん』って気になります」「ハンディキャップを持ったメダカがいるのですが、必死で泳ぐ姿を見ると、自分に重ね合わせて、『僕も頑張るから、お前も頑張れよー』と思っています」などと話してくれます。

Nさんをはじめとして入居者の皆様の心をメダカが少しでも明るくしてくれれば…と思いつながら、施設のスタッフが小さな命を懸命に育てて

います。これからも入居者の皆様の生活に彩を添え、心豊かに『生きる』ことを実感できる施設に行きたいと思えます。

### 「納涼祭を終えて」

総務課

毎年恒例の夏のイベント『納涼祭』ですが、感染拡大防止対策のためにボランティアの方々を呼ぶことが出来ないことから、今年は豪華な食事と和菓子と抹茶の振る舞いをすることにしました。

食事はうなぎと蟹の押し寿司を提供することとしました。

初めての取り組みだったので給食業者に試作していただき、見た目の華やかさを重視した盛り付けとなる



よう、食材選びなどを工夫してもらいました。デザート、マリトッツォも手作り、ホイ



舌鼓を打つ入居者のIさん

ツブクリームは冷えたままでない、と溶けてしまつため、パンに挟んで

果物を入れていくのも時間との闘いでした。

和菓子は、あらかじめ希望を聞いていたものを提供しました。

抹茶は、理学療法士が『久田流』で点て、抹茶茶碗やマグカップなど入居者の方々に合わせた仕様の器での提供になりました。

いつもとは違った食事や抹茶等に入居者の方々は舌鼓を打たれていました。



### ケアプラザ堺

### 「心境の変化」

入居者 脊戸昌幸

8月末に入居して一ヶ月ちょっと、身の回りの家具なども少しずつ買いそろえ、ケアプラザでの生活にも慣れて来ました。

施設での一日は、体操から始まります。天気の良い日は、緑豊かな施設外周を散歩し、外の空気に触れます。

入居前は、一人暮らしをしており、週に2回の買い物でしか外出しておらず、人との接点がほぼありませんでした。

施設に入ってから、適度な運動にバランスの取れた美味しい食事、職員や入居者との会話など、規則正



棒体操をしている脊戸さん

しい生活を送れ、心身健やかに過ごせています。  
 今はコロナ禍のため、自由に外出が出来ませんが、コロナ禍が落ち着いて来たら、堺の名所観光をしたいと思っています。

### 「コロナ退散神社の設置」

総務課

コロナ禍により、入居者の皆様には面会や外出などで制限がかなり、また、介護職員も感染対策でご苦労していることと存じます。

ケアプラザ堺の総務課ではコロナ禍の早期収束祈願として、事務所の受付に「コロナ退散神社」を創建（設置）しました。

コロナ禍が落ち着き、平常な日常を取り戻せるよう毎日神頼みしております。



コロナ退散神社

※写真撮影用に「賽銭箱」を飾ってありますが、賽銭は一切受け付けておりませんのであしからず。

### ケアプラザ呉

### 「納涼お食事会」

介護課

暑い夏、納涼会の季節がやってきました。ということで、8月3日（水）の昼食時に、食堂で納涼お食事会を開催しました。

メニューは、うなぎの押し寿司をメインに、肉まん、クリーム大福、ミニケーキなどスイーツのオーダーバイキングに、五種類の飲み物を用意しました。

食堂も、夏らしく青と白を使った



豪華な食事

飾り付けで入居者の方々をお出迎えました。いつもとは違う雰囲気の中、なごやかなごちそう

と、自分で選べるデザートバイキングに、入居者の方々からは、「美味しかった」、「お腹いっぱい」と、嬉しい声を多くいただき、職員も入居者の方々も笑顔が溢れるひと時となりました。

### 「ボッチャ大会」

介護課

コロナ禍のため様々な行事が中止になっていますが、ケアプラザ呉ではたくさん



真剣勝負  
(グランドチャンピオンシップ大会)

んの入居者の方々がボッチャを楽しみながら、日々腕を磨いておられます。その成

果の発表の場として、9月14日（水）に「第4回ボッチャ大会&第1回グランドチャンピオンシップ大会」を開催しました。

初めに通常の大会を開催し、白熱した戦いが繰り広げられ、新たなチャンピオンが決定しました。



続いて行われたグランドチャンピオンシップ大会は、これまでの大会の優勝者によるリーグ戦で、投げる位置を変えたり、ギリギリのラインを攻めたりと、戦略も高度です。繰り上げられる頭脳戦に、周りの観戦者からも「上手い」、「そこに投げるか」などの感嘆の声ががりました。

大会優勝者とグランドチャンピオンシップ大会優勝者が決まり、表彰式では優勝者と入賞者が笑顔で賞状や景品を受け取られておられました。



優勝者  
(グランドチャンピオンシップ大会)

### ケアプラザ新居浜

#### 「納涼祭」

総務課

7月27日(水)施設内の食堂で暑気払いの納涼祭を開催しました。

ギターの生演奏に合わせて歌を披露する入居者様や職員のミニコンサート、はずれなしのくじ引き大会などにより、雰囲気は大盛り上がりでした。

また、給食業者の協力により炭火や鉄板をベランダに構え、特別メニューとして、牛肉炭火焼、厚切りベークン、焼きそばやたこ焼きなどを用意していただき、焼きたての味を入居者の方々に楽しんでいただきました。



普段の食事とは違う味と雰囲気、あちらこちらで入居者様に笑顔が見られ、職

員との交流も深まった様子でした。

#### 「カラオケ&スイーツ祭り」

総務課

9月14日(水)、施設内の食堂で「カラオケ&スイーツ祭り」を開催しました。

コロナ禍により施設内のカラオケ室は利用制限がされていますが、カラオケ好きな入居者の方々にはお気に入り



曲を存分に披露していたくとも、デザートのスイーツは、シュークリームや水ようか

ん、プリンなど、その方の嚙下機能に合わせて提供しました。

歌自慢の入居者の方々による十人十色の歌声とスイーツで、入居者の皆様はもちろん、職員も含め、皆が晴れやかな気分です楽しい午後のひと時を過ごせました。

### ケアプラザ宇土

#### 「パソコンアート作品展」

総務課

入居者様がパソコンで作成された絵画15点を一階通路の壁を中心に展示し、作品展を開催しています。

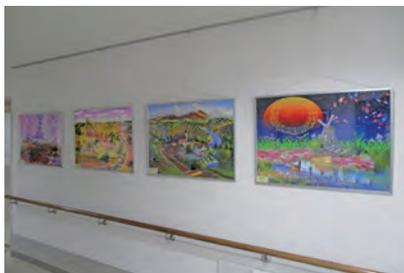
ファンタジーな作品もあればイン

パクトの強い作品など、どれも独創的で、真っ白な壁が鮮やかに彩られました。

コロナ禍前は、施設

近くの郵便局や福祉施設等でも定期的に作品展を開催し、地域住民の皆様にご覧いただけていました。

コロナ禍が収束し、施設近隣の皆様にも鑑賞いただける日が一日でも早く来ることを願っています。



#### 「食中毒予防講習会」

給食・栄養管理委員会

8月上旬の3日間、「施設生活で

の食中毒対策について」と題し、食中毒予防講習会を開催しました。

多くの入居者様へ周知する方法を考え、聞くだけでも学べるように音声付きの短編動画を作成し、お食事の時間に、食堂のテレビを利用して動画を再生しました。

動画を見られた入居者様が、「買っていた○○の賞味期限が××日までだったから早く食べよう!」など、すぐに日常生活に活かされているようでした。

また、音声を担当した栄養士の声に気づき、「誰の声かなと思ったら栄養士さんの声だったね。」との感想も多くあり、多くの入居者様に耳を傾けていただけたことがわかりました。



梅雨時に限らず、年間を通じ食中毒予防は重要です。引き続き安心安全な食事の提供と、施設生活の支援を行っていききたいと思えます。